

BS工場敷地ならびに周辺部 追加調査
(H22年3月～5月実施追加調査)
調査結果概要

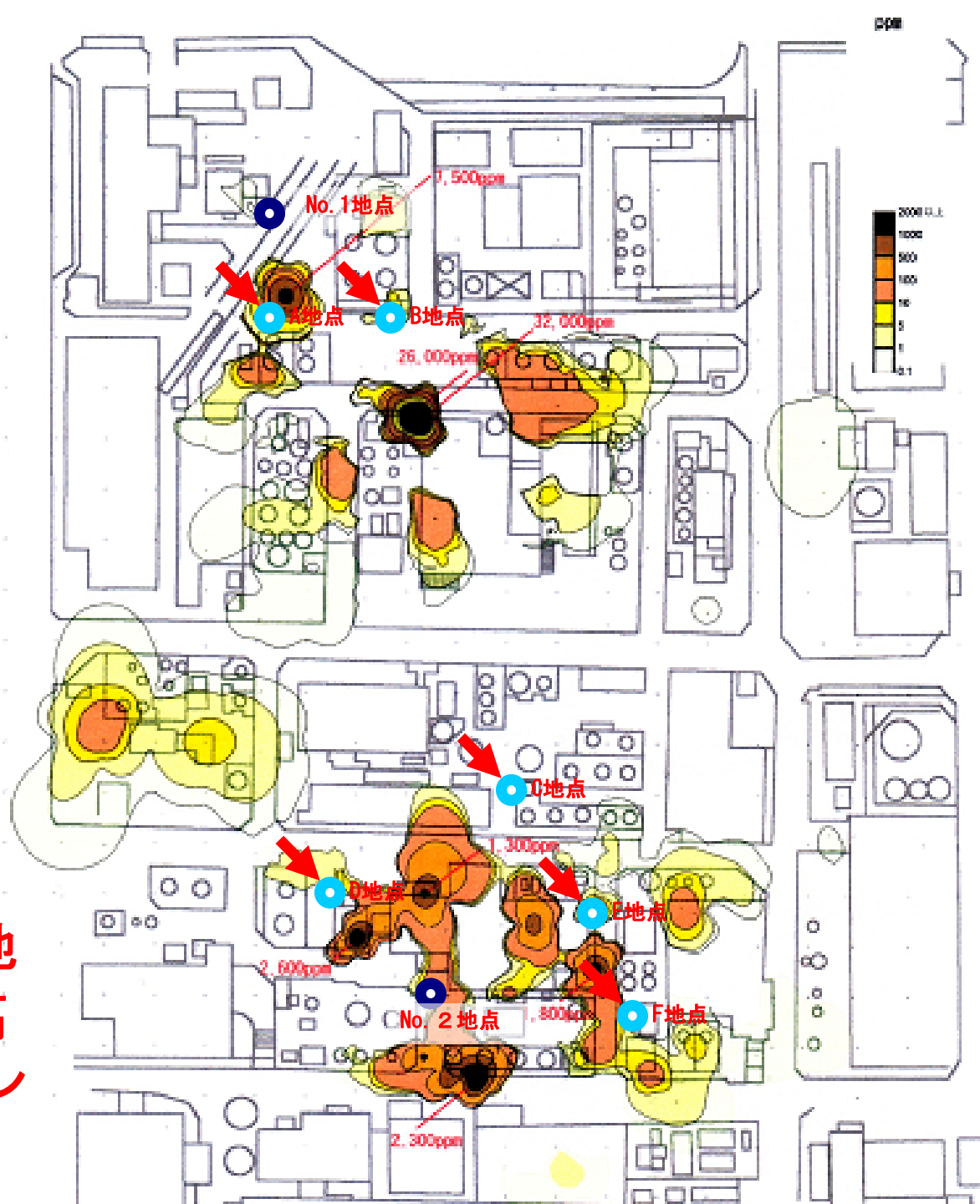
H22.6.24

第12回 環境専門委員会

土壌ガス調査結果 H18年度実施

ジクロロメタン 土壌ガスコンター

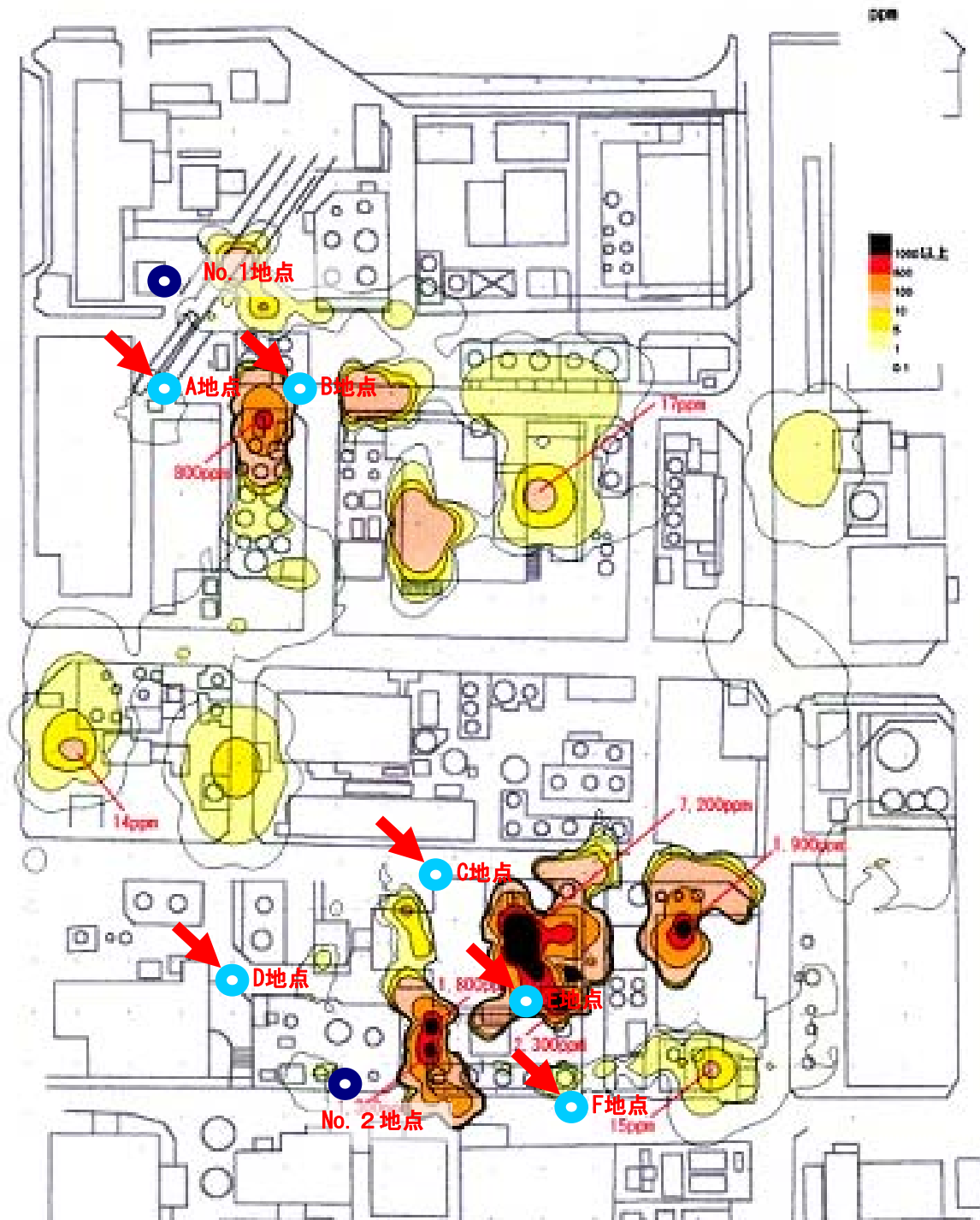
BS工場内の多くの地点にて、土壌中に高濃度のジクロロメタン（ガス濃度）が検出



土壌ガス調査結果 H18年度実施

1,2-ジクロロエタン 土壌ガスコンター

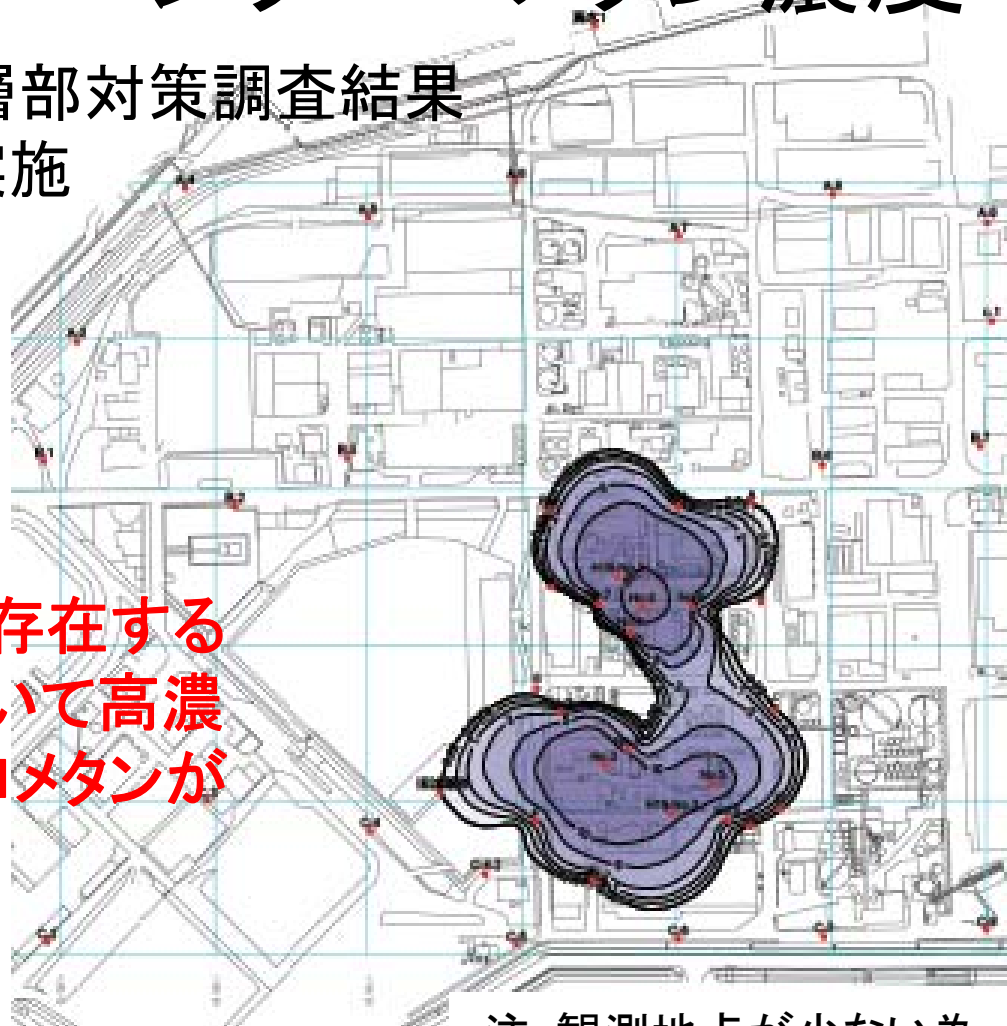
BS工場内の多くの
地点にて、土壤中
に高濃度のジクロ
ロメタン
(ガス濃度)が検出



宙水中 地下水濃度 ジクロロメタン濃度

BS工場内表層部対策調査結果
H21年度実施

地下浅部に存在する
宙水中において高濃
度のジクロロメタンが
検出される。

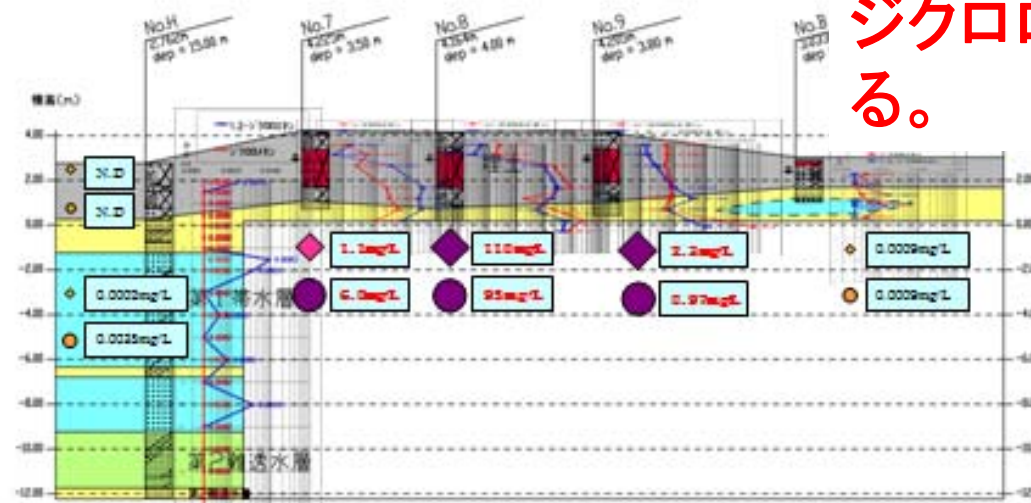


注：観測地点が少ない為、図上の濃度分布と実際の濃度分布は大きく異なることも考察される。

⑤ライン(No.H-No.B断面)想定地質断面図 SH=1:1,000 SV=1:200



⑤ライン



地下水濃度分析結果



地質状況とジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン

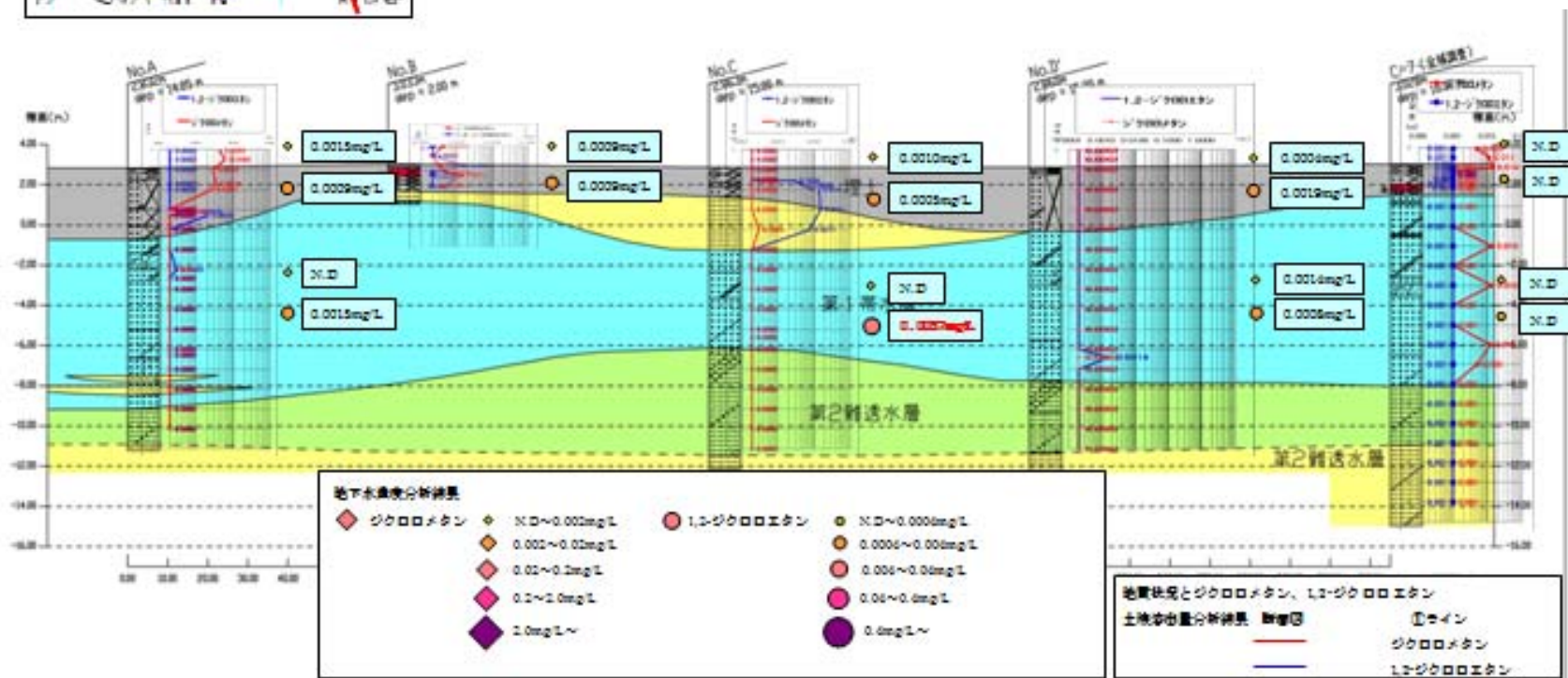
±地溶出量分析結果 断面図

⑤ライン
ジクロロメタン
1,2-ジクロロエタン

No.7,No.8,No.9地点においては地下浅部の土壤中においては高濃度のジクロロメタン、1,2-ジクロロエタンが検出、また同地点の宙水中においても高濃度のジクロロメタン、1,2-ジクロロエタンが検出される。

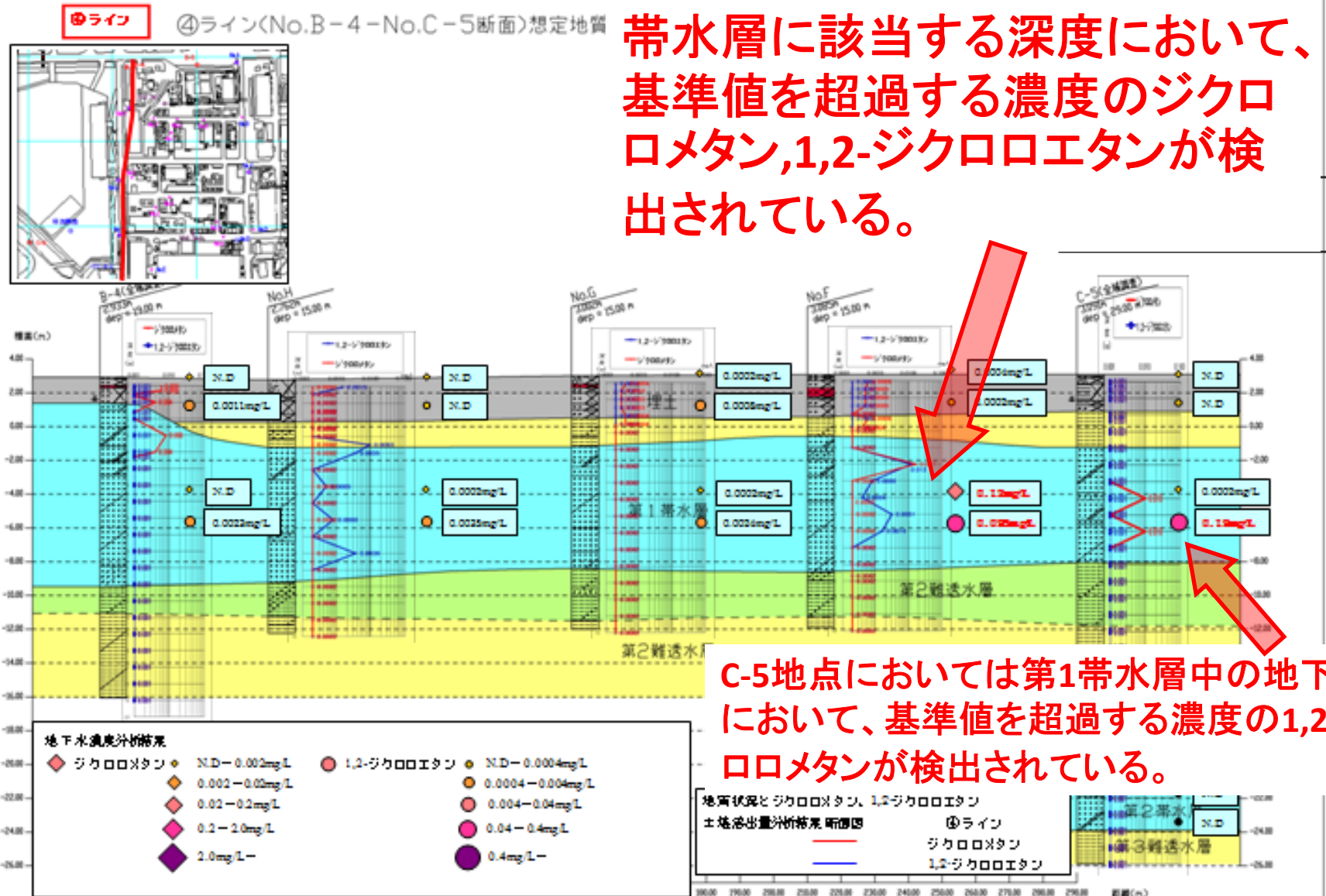
BS工場北側境界の
No.A,No.B,No.C,No.D地
点においては、土壤中、
および同地点の宙水中
においても高濃度のジ
クロロメタン、1,2-ジクロ
ロエタンは検出されない。

①ライン(No.A-No.C-7断面)想定地質断面図 縮尺:1:1,000
SV:1:200



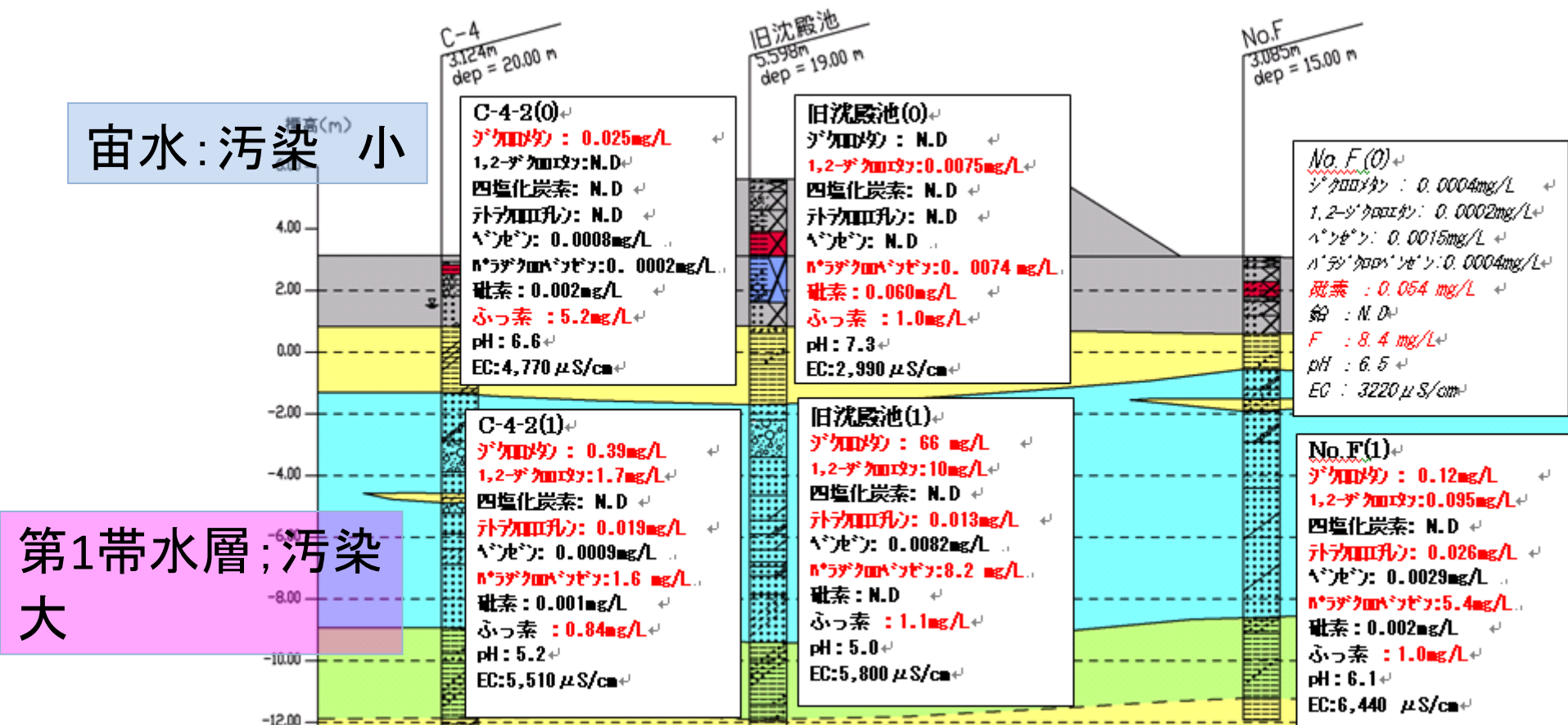
BS工場南側境界.

No.F地点において土壤中の第1帯水層に該当する深度において、基準値を超過する濃度のジクロロメタン,1,2-ジクロロエタンが検出されている。



C-5地点においては第1帯水層中の地下水において、基準値を超過する濃度の1,2-ジクロロメタンが検出されている。

C-4,旧沈殿池地点 地下水汚染状況



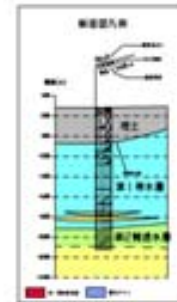
C-4地点,旧沈殿池地点; 第1帯水層中において高濃度のジクロロメタン、1,2ジクロロエタンが検出される。

周辺地域からの地下水流動に伴う移動・拡散によって、汚染が生じているものと推定。

⑩ライン(No.F-No.D断面)想定地質断面図 SH=11,000 SV=1,200

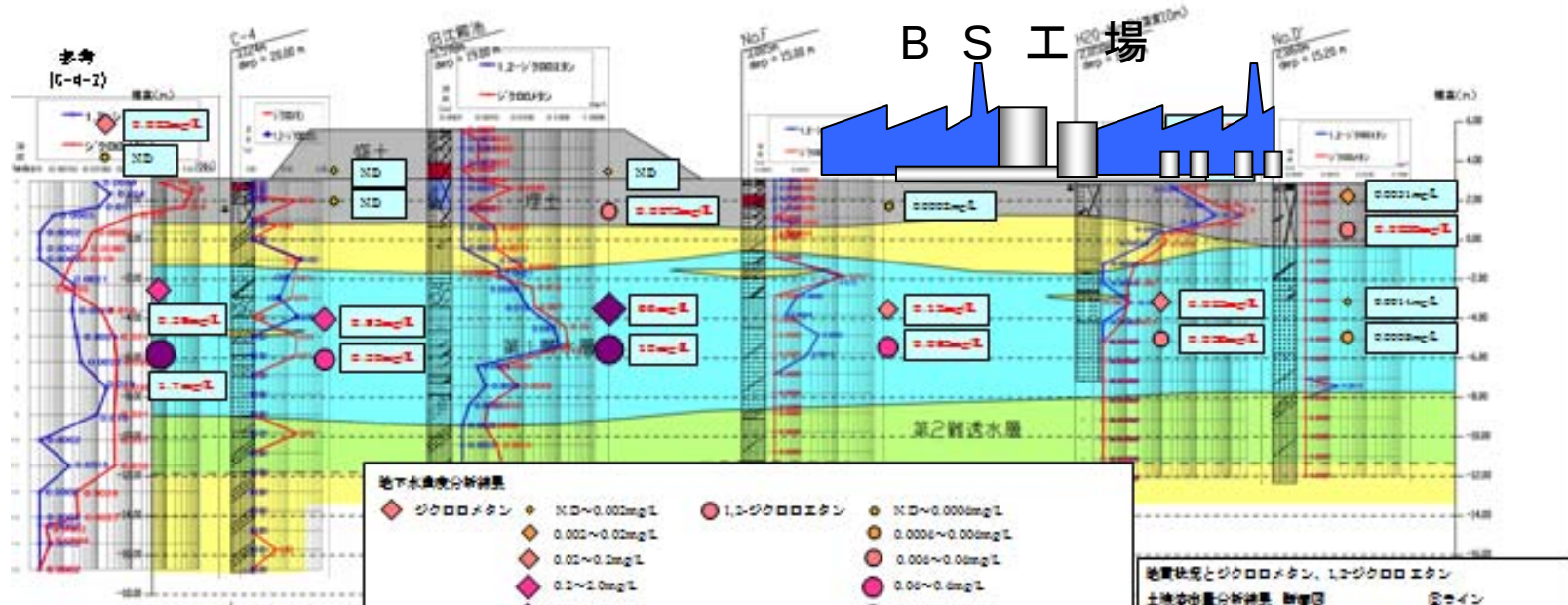


⑩ライン



柱状図記号凡例		

WDPNo.2 地点は、本館に建設された調査井（M12.25 工務土壌地質調査）の値を引用して記載。
C-4 地点は、本館に建設された調査井（全館調査）の値（FID-C4 分析結果）を引用して記載。



BS工場から旧沈殿池に至る断面図。C-4,旧沈殿池地点の第1帯水層において高濃度のジクロロメタン、1,2ジクロロエタンが検出されているが、BS工場内においては検出されていない。汚染の拡散経路が不明。

今後の課題(1)(H22.1月時点)

- ・ 旧沈殿池内、および旧沈殿池とBSサイトの間における地下水汚染状況の把握.

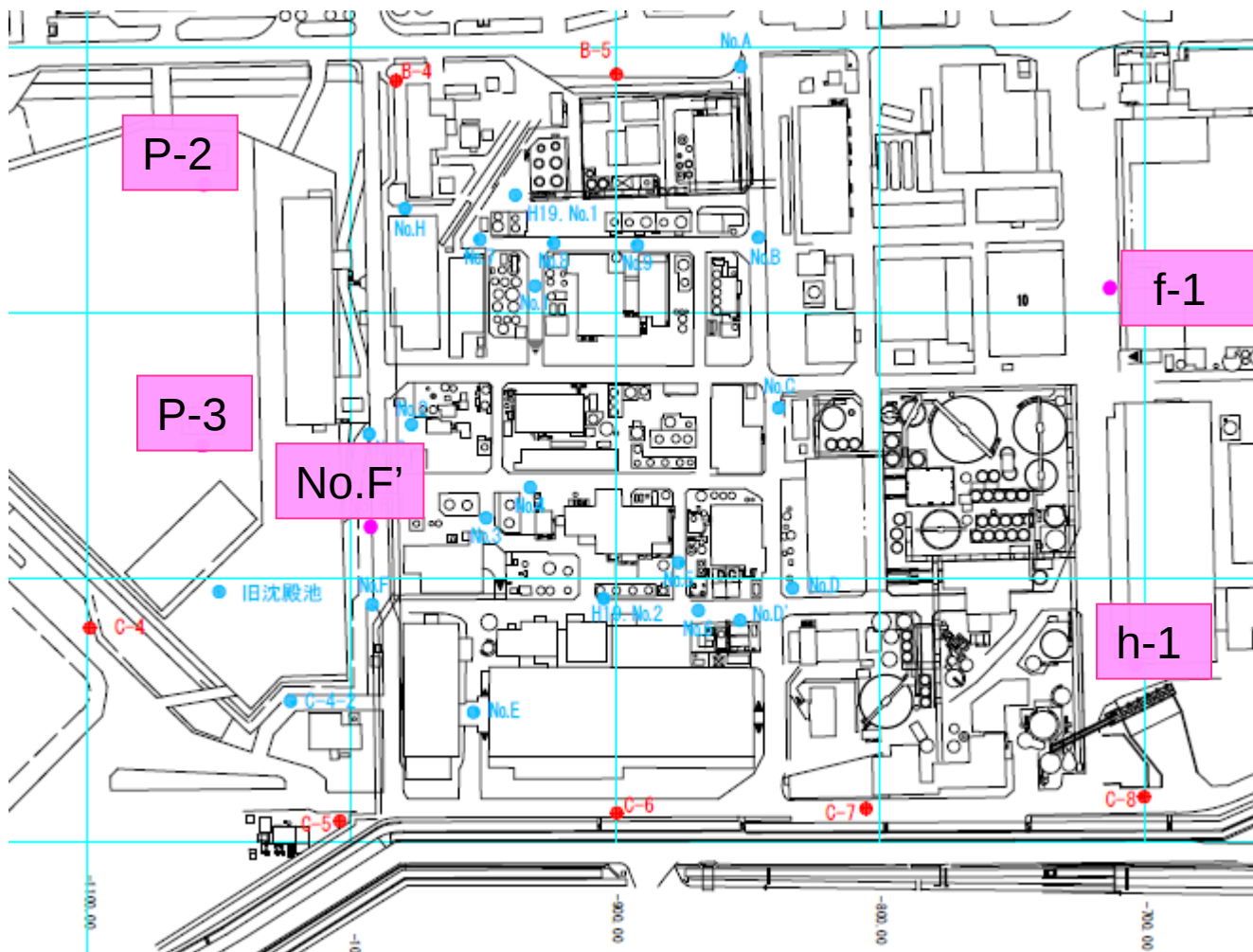
→数地点のボーリング実施を計画する

→BS工場での汚染機構解明へ

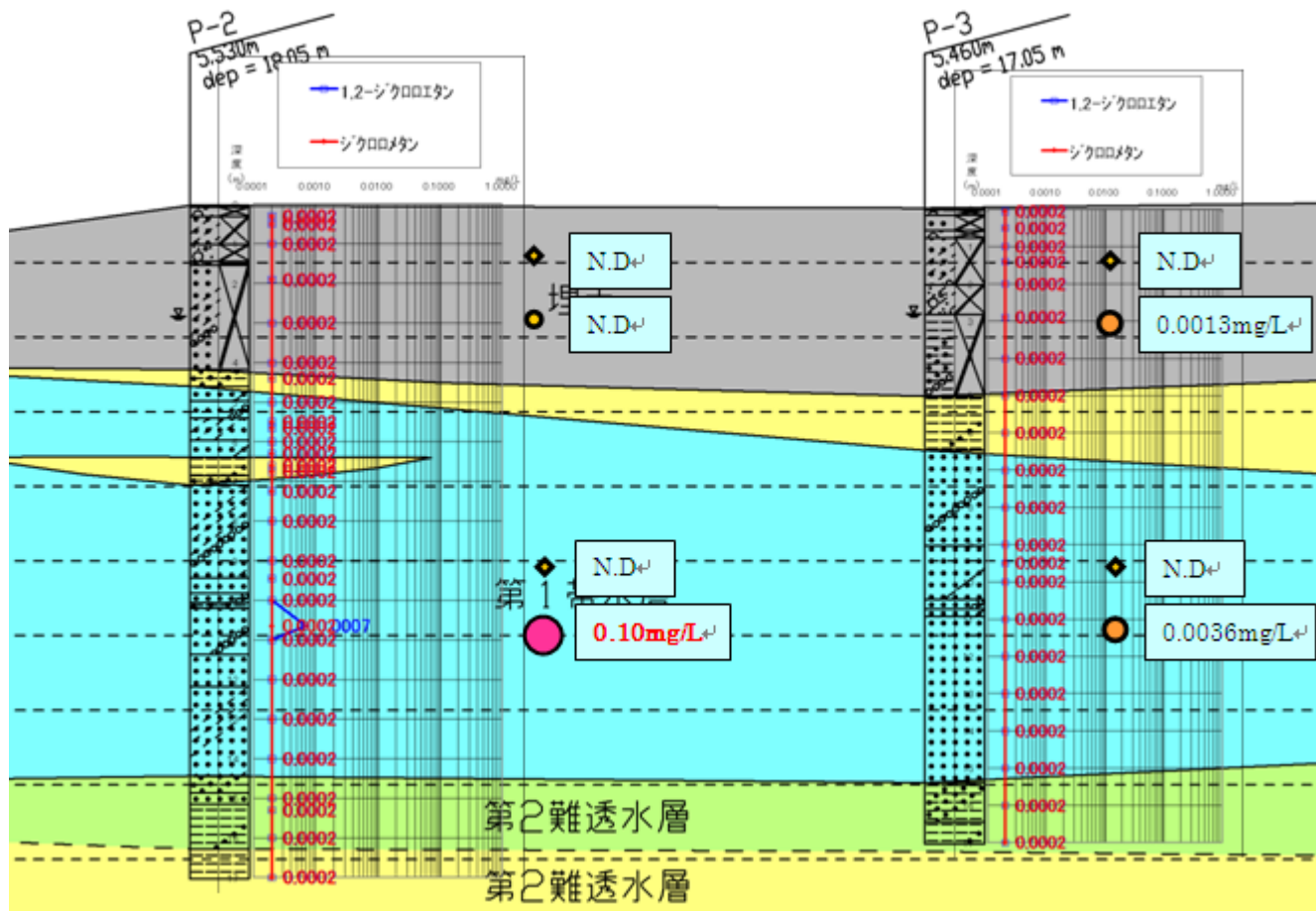
敷地と旧沈殿池地点
との関係は？



追加調査 実施地点（5地点）



P-2,P-3地点 調査結果



P-2地点の第1帯水層中にて地下水基準を超過する1, 2-ジクロロエタンを検出。その他の地点では地下水基準値以下、土壌中の濃度も指定基準以下

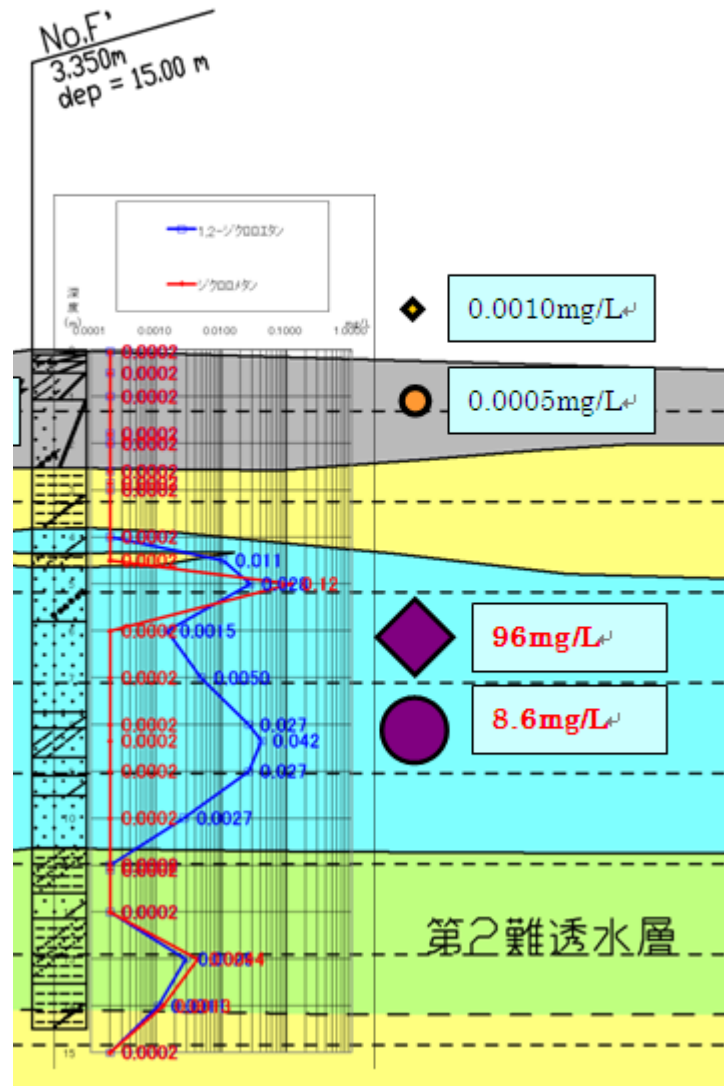


シミュレーション解析による 第1帯水層中の粒子逆解析

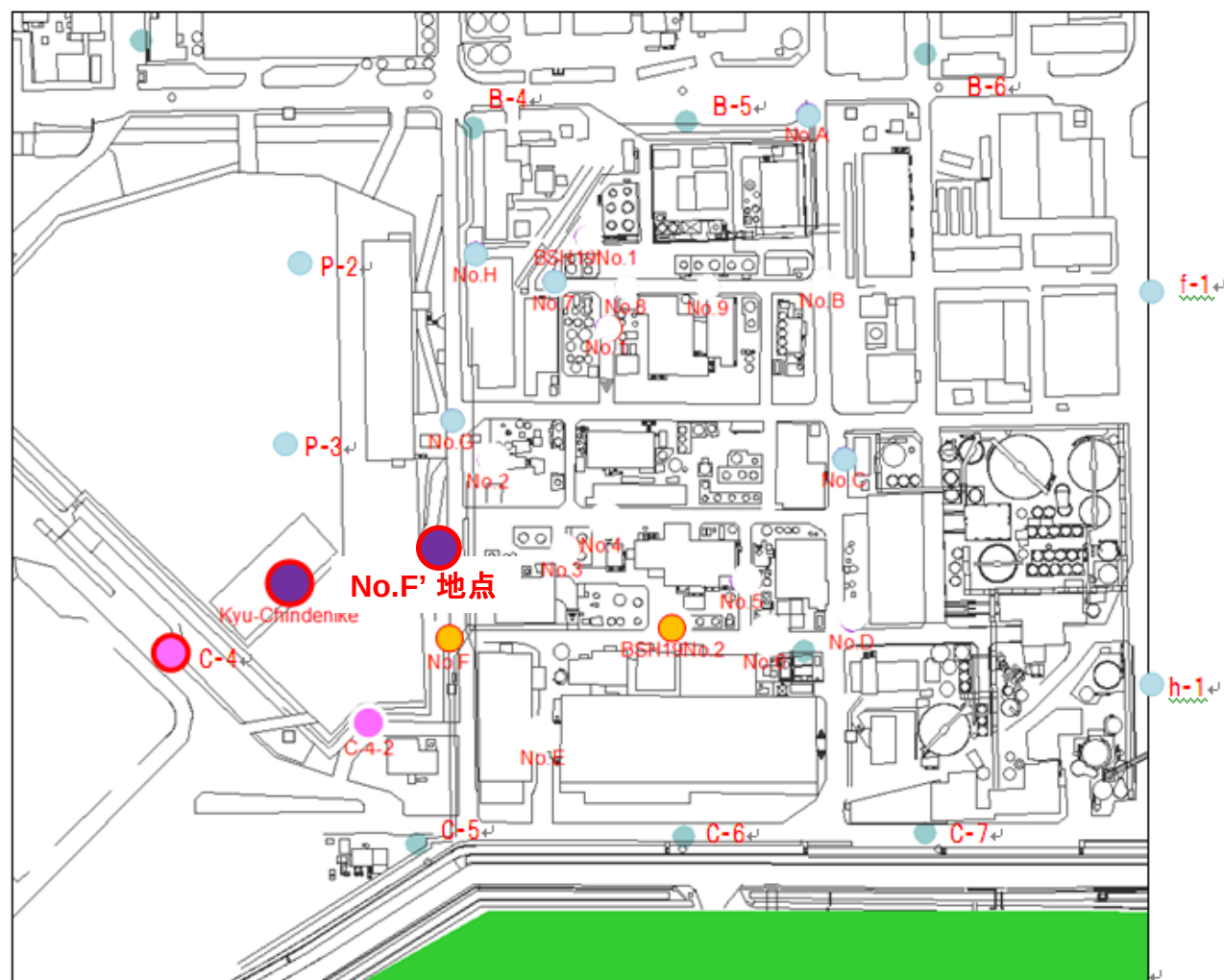
旧沈殿池観測井地点から逆算

矢印マークの間隔は10日(ある矢印から次の矢印までの移動時間は10日)で、
全軌跡の長さは600日である

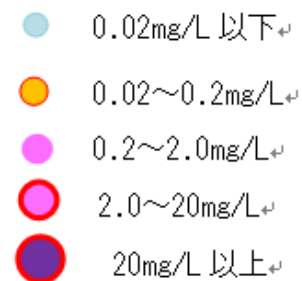
No.F' 地点 調査結果



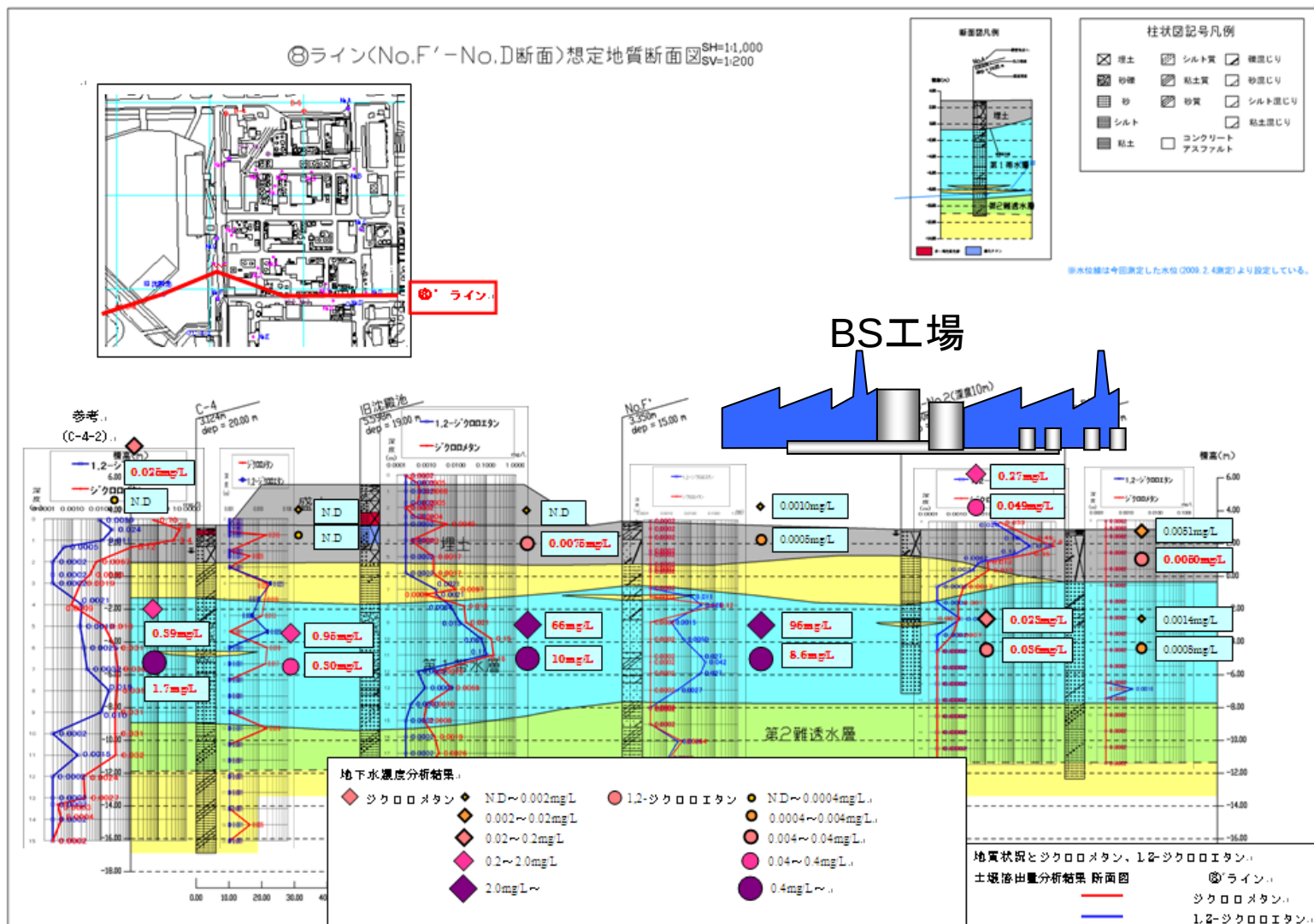
第1帯水層中にて高濃度のジクロロメタン、1, 2-ジクロロエタンを検出される。
土壌中においても指定基準を超過する濃度が検出される。



第1帯水層中のジクロロメタン濃度



土壌・地下水汚染機構の推定



今後の調査計画

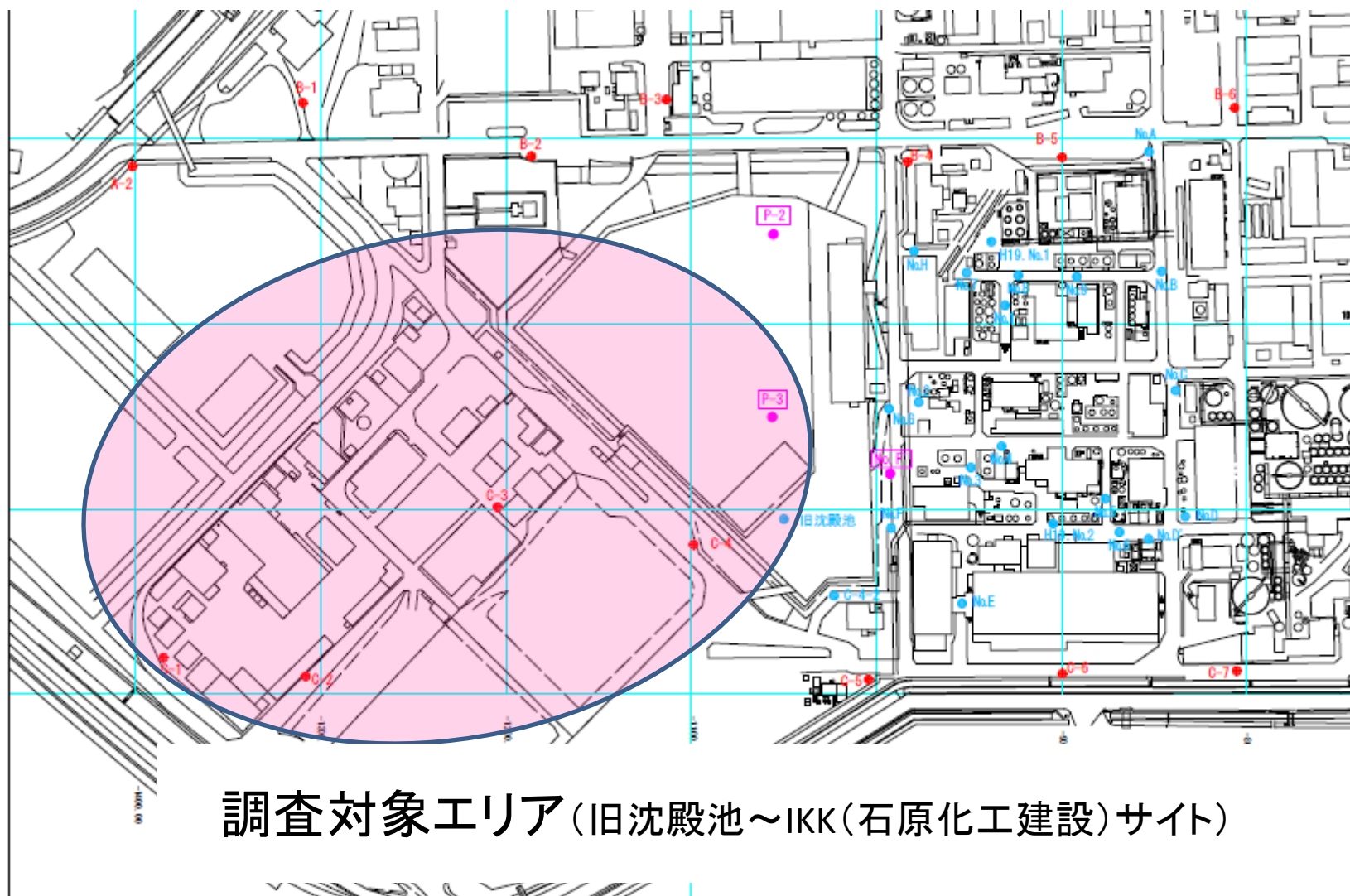
→BS工場汚染源から旧沈殿池を含む工場敷地南東部（IKK敷地を含む）の汚染拡散機構の把握

1.土壌ガス調査

2.ボーリング調査、土壌・地下水汚染状況の把握

3.地下水流動状況、汚染物質拡散状況の検討

→H22年.7月以降実施



今後の課題(2) (H22.1月時点)

- ・地下浅部のシルト層の分布範囲.
(BSエリアと北西部エリアの連続性の確認)
→数地点のボーリング実施を計画する

